



ほけんだより 7月

聖隷こども園
保育園 保健部会
2023年7月1日



梅雨が明けると夏本番ですね。水遊びやプールなど、子どもたちにとってこの季節ならではの遊びが楽しめる時ですが、着替えなどで肌を露出する機会が多いのもこの季節です。少し前から「プライベートゾーン」という言葉が聞かれるようになってきています。今回のほけんだよりでお話します。

プライベートゾーンって何だろう？



プライベートゾーンとは、プライベートパーツともいわれ、自分だけの大切な場所という意味を持ちます。具体的には、口、胸、お尻、性器のことです。子どもには「水着で隠れる部分と口だよ」と説明するのもわかりやすいでしょう。男の子の胸が隠れていませんが、「性別にかかわらず胸はプライベートゾーン」になります。

「口は見えているのにどうしてプライベートゾーンなの？」と疑問に思うかもしれません。

「誰に、どこを、見られたり触られたりしてもよいのかは、自分が決めていいんだよ。身体について少しでもいやな気持ちになった時は、『イヤだ』と断るんだよ。」と伝えることが大切です。

子どもに伝えたい 3つのポイント

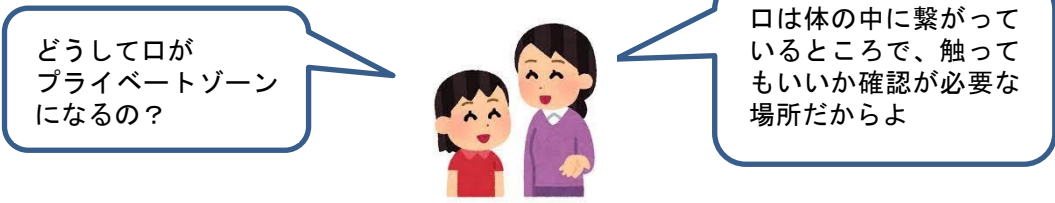


3. イヤな気持ちになったら「イヤだ」とはっきり言う

プライベートゾーンを見たり、触ってくるような人がいたら、「イヤだ」とはっきり言うように伝えましょう。「イヤだ」という意思表示をすることが、「逃げる」「大人に相談する、助けを求める」ことに繋がっていきます。

いつから教えるのがいいのでしょうか？

プライベートゾーンについて教える時期は具体的に決まっているものではありませんが、3歳～10歳くらいが性に対して恥ずかしさを持っていないので、伝えやすいし、伝わりやすいでしょう。子どもが異性や自分の身体に興味を持った時がおすすめのタイミングです。子どもがきいてきた時に「よく気づいたね」「いい質問だね」と受け止めてあげましょう。その為には大人もしっかり説明ができる様、準備をしておくといいですね。



参考資料 ・ALSOK ・家庭でできる性教育サイト「命育」



専門家による家庭でできる性教育サイトもおすすです。

絵本・大人向けの本も紹介します

お勧めの本



遠見才希子 (著)
大泉書店



安藤由紀 (著)
岩崎書店



和歌山静子・山本直英
童心社



遠見才希子 (著)
童心社



宮原由紀 (著)
メディアハウス

保護者向け



「いかのおすし」は誘拐などから「子どもが自身を守る」ために作られた防犯標語です。家庭内でも親子でしっかり話し合っておくことが重要です。ただ言葉だけを知っていても具体的なパターンを知らなければ、子どもだけの時に判断を誤る可能性があるためです。

子どもを犯罪から守るために「くり返し」「具体的に」伝えていけるといいですね。